



アクションプラン

Invitation Programme
for Japanese Teachers

グループB

韓国の子供たちの姿と教育環境の視察

- ・ 今回、特色ある3つの学校視察が一番心に残った時間でした。

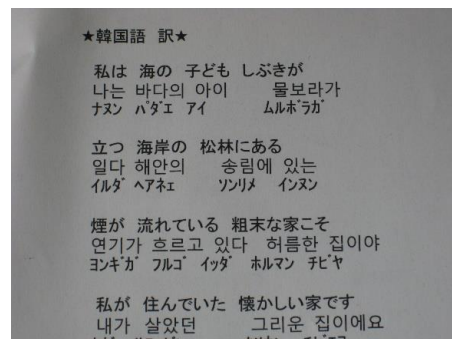
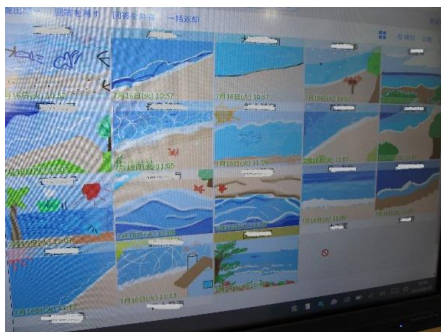


キメ外国語学校
全寮制で23:30まで授業カリキュラムが組まれていました。生徒たちの外国語能力はとても高く、グループ活動での課題解決学習は一般企業での会議内容と同じレベル1日で仮想HPを制作するチームも

チジョン小学校
全校児童10人 教育環境設備が整い、英語ルームも充実！地域独自の学習アプリで近隣の学校と合同授業を見学。みんなで日本の伝統文化授業を行いました。ドラえもんや大谷選手は有名人でした。

釜山ソンウ学校（特別支援学校）
様々なカリキュラムの授業展開を見学 テコンドーの先生との体育や 日本の先生たちとみんなで巨大折り紙で鶴を折ったりハイタッチしまくったり、言葉はなくても十分に触れ合った時間を共有できました。お昼の給食が格別に美味しかったです！子供たちの作った作品をお土産にいただきました。

今後のアクションプラン



★韓国語 訳★

私は 海の 子ども しぶきが

나는 바다의 아이 물보라가

ナヌン バ`ダエ アイ ムルボ`ラガ

立つ 海岸の 松林にある

일다 해안의 송림에 있는

イルダ`ヘアネ ソンリメ インヌン

煙が 流れている 粗末な家こそ

연기가 흐르고 있다 허름한 집이야

ヨンギ`ガ フルゴ` イッタ`ホルマン チビ`ヤ

私が 住んでいた 懐かしい家です

내가 살았던 그리운 집이에요

ネガ`サラットン クリウン チビ`エヨ

●校内研修報告及び今後のビジョン（本校でどのような事ができるか）夏休みの研修会にて共有→2学期以降の取り組みへ

●音楽の授業内において

6年生対象「われは海の子」を釜山の小学生に紹介しよう！

ハングルで歌おう・イメージイラストを描こう→7月～9月の授業で
ESDにちなんだ歌を作ろう（作曲アプリを使って）→今月の歌に追加

●行事の中において

「市内音楽会」での国際交流やESD、平和教育などにからめた曲の発表→11月

「おわかれ音楽会」で韓国との交流にちなんだ曲の発表（例えばアリラン合奏、サドルノリ演奏、U&I合唱 など）→2月

令和6年度韓国政府日本教職員招へいプログラム ～韓日友好親善強化に向けて 百聞は一見に如かず～

●김해외국어고등학교 金海外国語高校 訪問

金海外国語高校訪問では、教育課程や授業の様子などが見聞できた。まず驚いたこととして学習時間の長さであった。授業だけでも午前9時ごろから21時ごろまで。その後、2時間の自主学習時間。就寝は午前1時と寮生活でならでの生活であろう。授業スタイルは、プロジェクト学習など、生徒の主体性を重視した学習が中心であった。昼休みには、どの生徒も積極的にコミュニケーションするイメージがある。ホームビジットでは韓国の一般家庭において温かい歓迎を受けた。

경상남도교육청 미래교육원 방문 慶尚南道教育庁・未来教育院 경상남도의령교육지원청 방문 慶尚南道ウリョン教育支援庁への訪問

東京でいうところの未来科学館と同様の機能をもつ教育施設。各実験ブースでは、センサー付ロボットを用いたプログラミング学習やVR映像などを駆使した科学に触れる学習の場となっていた。また、児童・生徒の学習データを一元管理し、AIによる診断、教示など最先端技術の活用等も一地方自治体で行っていることについて驚いた。



지정초등학교 芝正初等学校

韓国でも農村部の少子高齢化は深刻な問題であるようだ。この学校は全校児童が10名。来年度は8名となるとのこと。そんなことから児童数の少ない学校同士が連携して他の学校と協働学習に取り組んでいた。また、教育予算が日本よりも潤沢なためICT機器、施設面においても手厚いと感じた。児童はとても人懐っこく、素朴な子供の印象を受けた。授業参観に加え、全児童と芝生の校庭で一緒にボールを追いかけたことは感慨深い思い出となった。



한-일 교사 간담회 日韓教師懇談会

韓日の友好の証である朝鮮通信使に関する講演をきっかけに、両国共通の教育課題に関する討論によって関係性が近付いた。互いの国における教育者としての信念を踏まえ、考えが深まることで更なる友好関係を築くことができた。教育は世界を変え得る。互いの国の文化や未来について大いに語らうことができた。



令和6年度 韓国政府日本教職員招へいプログラム記録写真

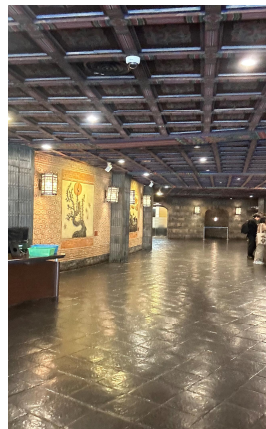
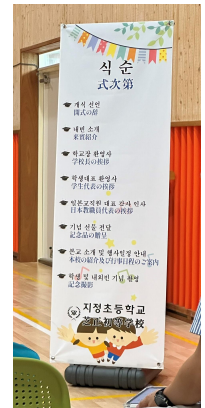
개회식 및 환영만찬
開会式及び歓迎の晩餐会



김해외국어고등학교
金海外国語高校



지정초등학교
芝正初等学校



경상남도의료령교육지원청
慶尚南道・宜寧教育支援庁



가정방문
家庭訪問



今後、国際理解と東アジア諸国の交流の為に韓国現地校とのオンライン交流などを進めていきたい。また、今回の訪問によって、両国における社会問題も教育課題も似通っていることから、今後の諸外国の教員の視察なども積極的に受け入れていく。

近隣の学校とつなぐ授業

7月11日（木）3日目に訪問した学校のチジョン小学校は全校生徒12人と地域の人口減少により生徒数が減少傾向にある学校だった。

私が勤務している学校も生徒数減少の課題を抱えている学校で5年前と比べて中学校だけで20人減少している。

チジョン小学校では、i-toktokといプラットフォームを活用し、同じ課題を抱えた同地区の学校と算数や生活などの教科指導の授業を定期的にオンラインで行っていた。少人数の課題を解決し、学びあいの時間を増やすことが狙いだった。

その一方、現場教員の意見の一つにオンラインではなく、オフラインで実際に会って体験する機会を増やしたいという現場の声もあり、日本の課題と類似するところもあった。



日韓をオンラインでつな ぎ国際理解教育を

今回の研修プログラムを通して、韓国と日本は、ただの隣国というだけでなく、国が抱える教育課題が似て言うということを知ることができた。

直面する課題に対するアプローチが似ているからこそ相互理解を深め、力を合わせる必要があると考える。

相手の国の良さを認め、その背景を知るからこそ、自国の良さに気づくことができ、さらに新しいことを想像できることを改めて感じた。

そこで、小学年時や中学年時の早期から互いのことを知り、互いの文化を学ぶことで、より良い国際協力につながると考える。国際理解教育を進めるにあたっての課題は、移動にかかる時間、距離、資金である。その課題を解決するためにAオンラインでの国際理解教育に取り組みたいとかんがえる。

Aを実現するために右のように計画していく。

- ①校内で国際理解教育の推進
- ②韓国の歴史や文化理解教育の推進
日本の歴史や文化の再発見
- ③公的国際交流事業を使っでの交流先
(オンライン・カード・動画)の詮索
- ④交流計画(生徒)ー文化紹介など
- ⑤交流計画(教員)
- ⑥交流実施
- ⑦振り返り・まとめ



a.驚きの経験

初めに訪問したキメ外国語高校では日本からきた教員に対して生徒たちが興味を持って積極的に話かけてくれたことで、渡韓前に心配していた反日感情について、とても前向きな解釈をすることができた。

日韓の壁は未来のために乗り越えなければならない障壁であることを多くの生徒たちが理解しており、実際に乗り越えようと、すでに壁の上まで登って来ているように見えた。壁は日本側から手を差し伸べれば簡単に超えられそうに見えたことが、私の国際理解教育、交流事業への意欲に火をつけた！

日本の
生徒と交流
させたい！

B.野望

1. オンライン交流から始める

2. 相互訪問を実現させる

3. それぞれの交流を1度きりにさせない

C.実現に向けてのアクション

キメ外国語高校の日本語の先生に
に交流の機会を依頼した

韓国に人脈のある方に学校選定の
お手伝いを依頼

ACCUにユネスコスクールの紹介を依頼

韓国修学旅行検討委員会の立ち上げを検討

韓国文化院による韓国語教育を検討

別働隊の韓国派遣、視察

10月に
実施
決定！

共同研究など
学術交流まで育
てたい！

修学旅行で相互
訪問を実現させたい

放課後
ハングル講座

別の人間の
目で価値観
を共有

単年度の交流に終わら
せず、日韓のOGが集う
ことができるコミュニティ
を作りたい！

慶尚南道ウィリョン地域で行われている共有教育とは？

・ 私たちが訪問したチジョン小学校は全校生徒が10人。地方の少子高齢化の影響で50年前には1000人いた生徒が激減した。



・ 広大な芝生の校庭、最新鋭の設備が整った教室、充実した設備を最大限に使いこなす教師たち。教育への情熱、子供達への愛が伝わる。



・ 訪問当日は、オンライン授業の日で、画面の向こうからは、元気な声が響いていた。また、地域独自で、ICT教育で活用するプラットフォームも開発してしまったというから驚きだ。



- ▶ ウィリョン地域では、14ある小中学校のうち大規模校2校を除く12校を4つのグループに分け、共有教育を行っている。
- ▶ 週1回のオンライン授業と中心学校に赴いての直接交流を行う。
- ▶ 学期に2回の合同体験活動と体育祭・修学旅行の共同実施。
- ▶ 教室で一人で学んできた子どもは、お友達に会える火曜日を心待ちにしている。

長野県の総合学科4校連携による韓国語授業交流

- ▶ 長野県内には総合学科が6校あり、その内4校で韓国語が開設されている。
(本校、塩尻志学館、中野立志館、丸子修学館)
- ▶ アウトプットの場として、インスタグラムを開設し、動画を投稿し、授業の成果を共有し、お互いにコメントを送り合う。
- ▶ 長野県の国際交流員（CIR）による韓国文化授業をオンラインで実施し、フィードバックをしあう。
- ▶ 韓国で日本語を学んでいる高校生にもインスタをフォローしてもらいコメントをもらう。
- ▶ SNSやオンライン会議アプリを有効活用し、教室外の人々との交流を通じて、学習意欲を高める。

韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動

①伝え合う楽しさと嬉しさ

- ・金海外国語高校の学生との直接交流。
休み時間に積極的に日本語を話しに来た学生たちに驚いた。
- ・ワークショップや懇親会で、韓国の教員の方々と様々な話ができた。
韓国語、英語、アプリ、使えるものは総動員でお互いの共通点や相違点などを知った。
- ・釜山ソンウ学校で、発語が殆どない児童と
声のトーンや体の動き、表情などでコミュニケーションをとった。
言葉以外のコミュニケーションの力を改めて実感。



高校に掲示されていた作品



手を引いて
やりたい事を伝えてくれた

②特別支援学校でのSDG s 達成のヒント

- ・釜山ソンウ学校では様々な学習活動がSDG s に結び付けられていた。

授業内容としてSDG s を取り入れるだけでなく、学校の取り組みそのものがSDG s 達成につながるという考え方

例) **地域の人材や施設の活用**

→17番 目標達成のためのパートナーシップ

写真カードやシンボルを活用したコミュニケーション

→4番 質の高い教育をみんなに

今後やってみたい取り組み

入院している児童・生徒対象（総合的な学習の時間、自立活動扱いで）

- ・すぐ近くにある国、韓国への興味を引き出す授業の実施
 - 訪れた学校と学生の様子を紹介
 - 特に、韓国で日本語を勉強している学生がいることを伝えたい
 - 翻訳アプリを使った活動
 - 韓国のことばや文字を使った活動
 - 韓国のおりがみ等を使った制作活動

教員対象

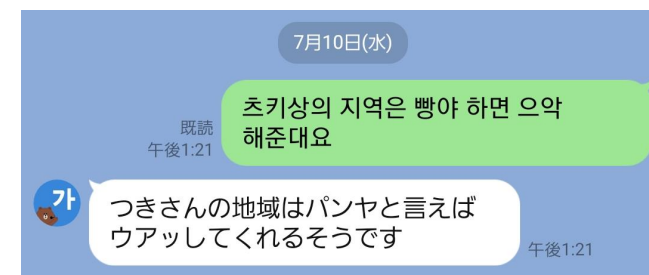
- ・プログラムで学んだ内容の共有
 - 校内研修会の実施

教員間交流

- ・お互い連絡を取り合える関係の継続
 - メールを主とした韓国の先生との交流の継続



日本語の歓迎メッセージ



翻訳アプリは時に謎が謎を呼ぶ！？

印象に残っていること

金海外国語高校



ホームビジット

3人の高校生と歴史問題について話題にした

チジョン小学校



授業の工夫

少人数校3校合同での

釜山ソヌウ学校



地域との結びつき
外部講師の利用

金海外国語高校



イ・ソヨン校長先生
対話する中から、気づき、学びが多くあった



日韓教職員交流会
出会いに感謝

釜山ソヌウ学校



SDGs 12
リサイクルを身近なところから

今後の取り組み

1. 児童生徒向け授業（知的特別支援学校高等部分教室、盲学校高等部重複・単一、中学部単一、小学部全）

◇文化紹介にとどまらず、次の2点の要素を児童生徒の実態を踏まえ、授業を構成する。

①お互いの文化を尊重し、対話することの大切さ ②地球市民として私たちができること

◇授業の構想

「韓国を知ろう」（総合的な学習の時間・総合的な探求の時間）

- ・韓国政府招へい事業の紹介
- ・韓国語であいさつしてみよう
- ・クイズで知る韓国（○×クイズ）

訪問校3校様子、朝鮮通信使、SDGs等も含める

- ・ハングルを知ろう（自分の名前を書いてみよう 点字使用者は韓国の点字で名前を書こう）
- ・韓国文化体験～韓服試着、楽器（チャンゴ、ソゴ）、テコンドー道着試着、試食等～



2. 職員向け研修報告会（希望者参加）

「韓国を知ろう」

- ・韓国政府招へい事業の紹介
- ・韓国の文化・教育事情について
- ・韓国文化体験（韓服、楽器、食等）

3. 韓国の盲学校との交流の実現

「ソウル盲学校」

「江原ミョンジン学校」（視覚特別支援学校）

- ・交流希望クラスの調整と時期の打ち合わせ
- ・交流を係につなげ、人が変わっても継続していく

○短期的課題

目標：探究学習の実践

～自ら課題を見つけ、課題に向かい自ら活動する～

参考事例：キメ外国語高校

実践事例：中学1年 校外学習 多摩市のPR動画をつくろう

日程	内容	期待される得られる能力
2024年12月	多摩市のアピールポイントや良いところを探す。	自分の住んでいる地域に興味関心をもち、他者に伝えようとする。
2025年 1月	多摩市のアピールポイントや良いところを紹介するための絵コンテを考える。	人を引きつける資料作成の計画をすることができる。
2月	・校外学習実施 ・動画作成	・計画に沿って行動し、予定していた資料を集める。また、予定外のことに對しても臨機応変に対応することができる。 ・計画に沿った作業を行う。また、より改善ができると判断した場合などの臨機応変な対応ができる。 ・目的に沿った資料を作成し、人を引きつけるための工夫が行える。
3月	発表 ・各個人がタブレットにおいて学年全体の動画を見る。 ・それぞれに評価を行い、良かったところを記載する。	他者の作品を客観的に評価し、自分の作品に関しても振り返りを行うことができる。また、他者の良いところを見つけることで、他者の意見を尊重することができる。

○中期的課題

目標：一人の子供も取り残さない学校対応
～ICTの活用～

参考事例：慶尚南道ウィリョン教育支援庁

実践事例：不登校生徒に対する、オンライン授業やタブレットを用いた学力向上を目指し、進路選択の一助とする。

時期	内容
2024年中期	①オンライン授業の環境を整える ・タブレット，方法の構築，規定の整備 ②家庭学習ができるツール（アプリケーション）の検討
後期	①オンライン授業の試験運用 ・不登校生徒・保護者への案内 ・要望事項の聴取，対応 ②家庭学習ができるツール（アプリケーション）の試験運用 ・不登校生徒・保護者への案内 ・要望事項の聴取，対応
2025年初期	正式運用開始
中期	実施生徒・保護者への聴取・対応
後期	対応策を講じた運用（以後定期的な改善を行う）

○長期的課題

目標：SDG s への取り組み
～生徒の主体的な活動～

参考事例：キメ外国語高校・釜山ソヌウ学校

実践事例：学校で行っている活動にSDG s の活動の意義と目的を生徒に自覚させ、自ら進んで活動をする生徒を育てる。

時期	内容
2024年中期	現在の各学年におけるSDG s の取り組みを抽出
後期	・現在行われているSDG s の活動に対して再検討。 ・来年度への年間指導計画への反映。
2025年前期	・教員に対する校内活動におけるSDG s 研修。 ・年間指導計画に基づく活動の実施。
後期	・学校ホームページにおいて活動の掲載や地域への呼びかけ。 ・今年度の反省を元に来年度の年間指導計画の変更。
2026年前期	生徒が主体的に年間を通したSDG s の活動を計画する。
後期	計画に対して振り返りを行い、来年度の活動の計画を行う。
2027年	ユネスコスクールのネットワークを活用し、他校との交流を行う。

韓国滞在中に印象に残っている経験や活動について

1. ソンウ学校での伝統文化授業

事前に生徒情報が手元に届き、生徒像をイメージしながら準備を進めることができた。現地ではソンウ学校の先生方が、非常に協力的であったことが特に印象に残っている。ソンウ学校では日本の伝統遊びである折り紙を行った。1. 5 m四方の折り紙を生徒と一緒に手で押さえたり、足で踏んだりしながら完成させることができた。日本の生徒が模様をデザインして、韓国の生徒が折って完成させる国際交流ができた。韓国の子供たちと教職員が一つになって活動することができた。

2. キメ外国語高校訪問とホームビジット

キメ外国語高校の行っているプロジェクト型会議がとても印象に残っている。教職員が一方的に教えるのではなく、大きなテーマだけを提示し、班でそのテーマに関係するプロジェクトを立ち上げる授業に驚いた。内容も人種差別やアメリカ大統領選などが扱われていた。多くを学び学んだ事を友達と議論しながら学びを深めていた。

ホームビジットでは生徒から「失礼な質問をしてよいですか。日本と韓国の歴史についてどう思いますか」と質問があった。非常に聞きにくかったと思うが、今後の日韓の関係のために前向きに質問してくれたのが印象的であった。

今後取り組みたい計画

1. 教員への情報共有

日本と韓国の歴史を知らない教職員が多い。平和について職員が学習する際に、今回の経験を共有したい。

今後取り組みたい計画

2. 韓国の文化や現地の学校の様子を日本の子供たちに伝える。

今回は体験で学校の給食を食べることができた。日本の学校との違いは辛いかな辛くないかなが大きな違いであった。日本の子供たちも食べ物には強い興味を示す。そこから文化や生活、歴史について伝え平和について考える機会を持ちたいと考えている。

取り組みに向けたプロセス

1. 教員への情報共有

まずは、校内の新規採用職員に対して教職員プログラムについての経験を伝える。そのために、初任者研修担当と連携しながら場の設定を行ってもらう。「日本と韓国の学校の違い」「韓国の支援学校」「平和を築くために」ということを軸にしながら伝えていきたい。

2. 日本の子供たちに韓国の学校の様子を伝える。

授業の中で取り組んだ模様を付けた模造紙がどのようなになったかを伝える。日本と韓国が協力して一つの物が出来上がったことを伝える。その後に、給食について触れて味の違いを考えてもらい韓国がより身近に感じるようにしてもらいたい。

アクションプラン



- 金海外国語高等学校の英語ディベート部とのオンライン交流を実施する。
- 本校は、韓国の清道高校(CHEONG-DO HIGH SCHOOL)との交流があります。この交流を更に推進していく。

10月5日、本校ハングル語同好会の生徒が、韓国の清道高校(CHEONG-DO HIGH SCHOOL)の皆さんとオンラインで交流しました。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)に登録している学校内で、清道高校とマッチングし、交流が実現しました。

1. 韓国で特に印象に残っている経験・活動

●講演及び日韓教職員の共同活動

- ・世界遺産は最も重要な価値があるかどうかで決定。⇔遺産の解釈やStoryが人それぞれ違う。
- ⇒正しい解釈をしないといけないから正しい教育「遺産教育」を教える必要があるという学び。

朝鮮通信使・・・日韓の大切な平和的・知的遺産。日韓の国民が共に作り上げた文化交流。

教師の役割の重要性

日韓の架け橋

- ・「私の世界遺産」の交流、書画交流など

⇒韓国の先生方との幸せな嬉しい御縁。たくさんお話した韓国の先生方と今も連絡を取り合い、オンライン交流の話が進行中！！

●文化交流授業

- ・Bグループの先生方と一緒に授業を考え、日本文化や伝統的な遊びを韓国の児童と楽しく交流。

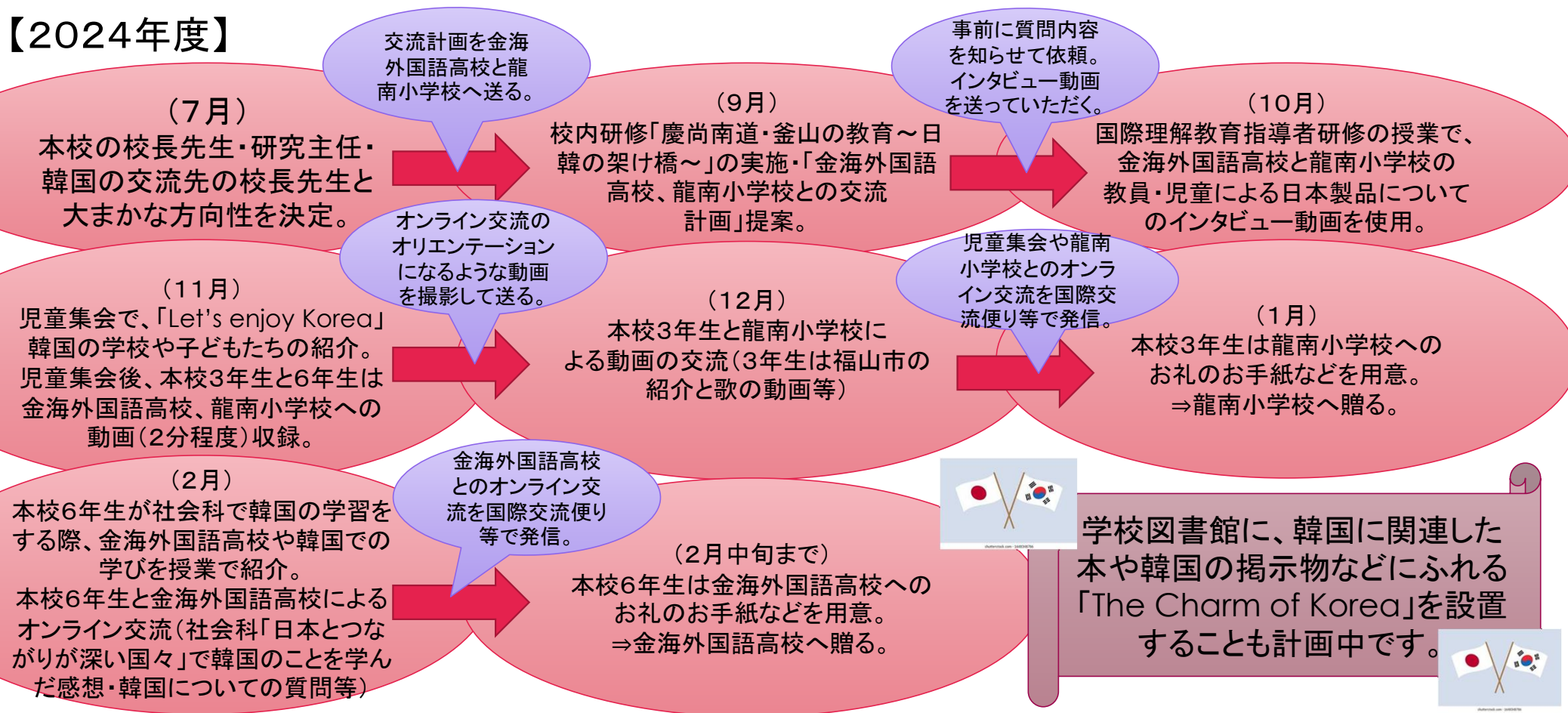
お互いの国の理解



とても幸せな出会い・御縁

2. アクションプラン～今後の取組・プロセス～

【2024年度】

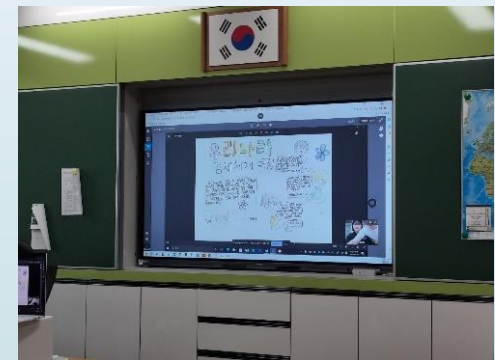


a) 印象に残ったこと

「子ども達の未来の為に我々に何ができるか」という問は、
国や環境が違えど、全ての教職員が抱く共通の思いなのだという
ことを強く感じた。韓国の先生方や子ども達と直接交流する
ことで、様々なアイディアを得ることができ、自分の引き出し
が増えた。また、日韓友好、そして平和のためにはまずは「対
話」が重要であり、子ども達レベルからの交流が不可欠である
と肌で感じる訪問となった。

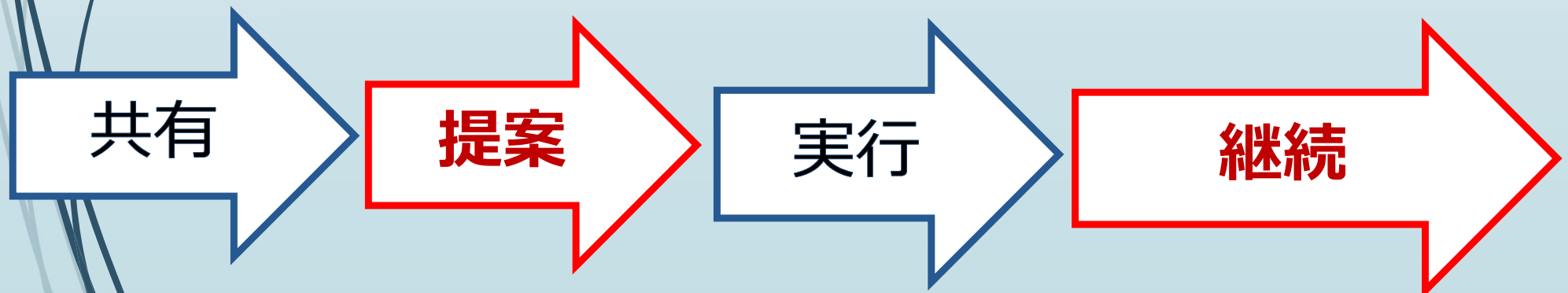
b) 今後の展望

- 1) 校内外の教職員への経験共有
- 2) 校内における地球市民教育の強化
- 3) スクールビジットの受け入れに向けた調整
- 4) 現地の高校との周期的なオンライン交流の運営



c) 実現に向けて

- 1) できるだけ沢山の教職員に共有する為に、勤務校や京都府高等学校国際教育研究協議会等に協力を仰ぐ。具体的且つ現実的なスケジュールを決定する。
- 2) 「総合的な探究の時間」において、学年横断的な地球市民教育の比重を高める。その為の、体系的な改編に向けた計画の提案を行う。
- 3)/ 4) 交流校と具体的な日程の調整を行う。
継続的なものとなるよう、綿密な打ち合わせを行う。



a. 韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動について

○金海外国語学校への訪問

普段中高生と接しているので、韓国の高校を訪問し、先生方や生徒と話をしたり、授業を見学させていただいて非常に興味深かった。

b. 今後どのような取り組みを始めたいと思っているか、具体的にやりたいことや計画について

○校内会議にて今回の研修会の報告(9月に実施予定)

○生徒には、礼拝のお話で今回のことを話す

○自習室主催の韓国語を学ぶ講座があるので、今後はそこと連携を取り、韓国に興味のある生徒にアプローチして、韓国の学校ともオンラインなどで交流をしたい。

○以前、タイの学校と学校交流をしており、その担当だったので、今後は韓国のキリスト教の女子校ともそのようなプログラムを行っていったらいいなと考えている。

印象に残っている経験や活動

①金海外国語高校訪問

- ・生徒：ハードワーク、言語能力が高い、積極的に質問する、将来の明確な目標、一方で授業量柔軟化週間中の「緩さ（服装、お菓子を食べながら授業）」がある
- ・環境：開放的な校舎のつくり（GIMFLセザトラ、ユルハロ266カフェ、インターナショナルラウンジ）、教室のICT機器、生徒の寮生活を支える（食堂、ATM）



②ワークショップ「ユネスコ世界遺産教育と地域で作る平和」

- ・世界遺産が有する「ストーリー」、その解釈をめぐって時には議論になる
- ・遺産教育を通じて現代の諸課題に目を向けさせることができる（環境破壊、戦争、オーバーツーリズム）
- ・日韓教職員と一緒に取り組んだ「私の世界遺産」のワークショップ

アクションプラン（国際理解のための授業）

『実践世界史(学校設定科目)』

普通科3年生・40人

- テーマ「佐渡金山 世界遺産登録をめぐる議論」
- 目標「異なる歴史認識を持つ日韓両国がどのように合意形成を図ったのかを理解する」
- 活動「資料(新聞記事)講読」「日韓それぞれの主張を整理する」「世界遺産の平和利用について考える」
- 参考資料『ユネスコ世界遺産、平和を抱く』(P.167～P.170)

『Active防災Ⅱ(学校設定科目)』

環境防災科3年生・36人

- テーマ「韓国の高校生(金海外国語高校)との防災を通じた交流」
- 目標「異なる文化的背景を持つ人々に対し、有益な防災情報を提供する」
- 活動「金海外国語高校の紹介(日本の高校生活との違いを理解する)」「異なる言語圏の人に伝わるように防災情報をまとめる」
- 交流方法:本校生徒がまとめた作品はデータ化し、金海外国語高校にお送りする。

a. 韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動

↓当日の夕食

↓キムチ専用冷蔵庫



金梅外国語高校での
「平和と共存」に関する講演



↑チャメという果物

金梅外国語高校生徒宅への
Home Visit



b/c. 今後取り組みたいことと具体的な方策

○校内教員研修の場での韓国での経験の共有する。

○総合や探究学習、理科の授業で「ESD」の視点を取り入れる。

- 主体的・対話的で深い学びの視点から、
今よりも更にLearners-Centeredの授業を展開する。
- 様々な問題を自分ごとと考えられる生徒の育成のため、
仲間の理解にも努力できるような授業を設計する。
- 学校全体に対して提案できるよう、積極的に研究授業を行う。

○世界平和への第一歩は、草の根での交流であることを伝える。

- 姉妹校交流など国際活動へ積極的に参画する。
- ソロモン諸島やシンガポールと併せ、自らの経験を語る。

What impressed me most

1

授業量柔軟化週間

金海外国語高等学校
で行っていた探究学習
探究学習のレベルの高さとテーマ設
定から解決法発信までのプロセス



オンラインによる交流学习

チジョン小学校で行っていたオンライン
交流学习
4校が同時に同じ教材で学ぶためのカリ
キュラムと先生方の授業進行



2

3

ホームビジット

キメ外国語高等学校の
生徒宅への訪問





Our Action Plan



7月

職員会議にてプログラム参加の報告

本校でのグローバル教育をより充実したものにしていけることを職員会議で共有



現在

(2学期より開始)

交流校の選定

交流内容の構築

オンラインでの交流をメインに検討
グローバル教育、土曜講座
担当者による検討会



2025年度

2026年度～

オンラインでの交流

国際交流

ミュージアムや同じ題材を扱った授業交流

探究学習の連携



1. 研修を終えて

韓国の研修では、多くの教育施設を訪問し、また、現地で教育に携わる多くの方々からお話を聞くことができた。どの訪問先でも、韓国の方からとてもあたたかくもてなしていただき、国の垣根を超えて、韓国の方々と交流ができたことが何よりの財産であったと感じる。

本研修において経験したことの中でも、特に印象的なことが2つある。

1つ目は、慶山南道教育庁を訪問した際に、人口減少が進む当該地域において、どんなに人口が減少していても、目の前に子どもがいる限り、その子どもの教育を受ける権利を守ることが教育に携わる大人の役目である、という内容のお話を、職員の方から聞いたことである。現在私の勤務校は大規模校であり、慶山南道地域とは違った状況であるものの、とても普遍的で重要な考え方であることを改めて学んだ。

2つ目は韓国の教職員の方々と直接コミュニケーションを取れる機会が多くあったことである。その中で、日韓の教職員が直面する課題には、非常に共通点が多いということがわかった。これは、直接コミュニケーションをとったからこそ、より現実的に知ることができたことであったと考える。



2. 今後の展望

今後、研修の内容を生かしながら、以下の3つことに取り組みたいと考える。

①校内での情報共有

校内で研修内容の報告をする場をいただく。その中で、本研修を通して学んだ探究学習や、SDGsにつながる活動などについて他の先生方と情報共有をし、後期の教育活動に生かせるようにする。

②八千代市内で行われる「八千代子どもサミット」での、情報共有、国際交流に向けた取り組み

勤務地である八千代市では、市内の小中学生が学校の垣根を超えて、地域社会の課題を考え、解決に向けた取り組みを行う「八千代子どもサミット」という活動が行われている。その場を活用して、地域の他の学校で勤務される先生方に、研修で学んだことを共有する。また、「八千代子どもサミット」の活動の一つとして、勤務校が所属する地域で、国際交流につながる活動を行えるよう、提案を行う。

③後期の生徒会活動において、国際交流につながる活動の実施

市内の大学で学ぶ留学生との交流の場を持てるように企画をすることや、直接の交流が難しい場合には、他国の文化を知ることができるような活動を企画する。このような活動を通し、学校全体で異文化への理解を深めることを目指す。



八千代子どもサミットの様子

100% 韓国を学ぶ化計画

韓国への学びを100%教育・医療
に活かす！！

生徒のmission:



韓国を知る学ぶ

80%



金海国際高校とつながる

100%



在日韓国人を知る

90%



在日韓国人と医療を深める

100%

本校生徒に授業実践:10・11月

授業を通じて、韓国に対する学びを
深める。

本校の教職員に活動報告:12月

職員会議で活動報告を実施する。

研修「外国につながる児童生徒の支援について」で報告:11月

ACCUでの学びを報告する。

TOPIC



出生率低下とAI

芝正初等学校 全校生徒10人
教員の指導案・PPTもAIが作成

ICTは小学生から

プロ並みのプレゼンテーション
母国語以外に英語・日本語も話す

普通校でも特別支援の先生

UNESCO school
環境教育

23時まで自己学習

早朝はランニング
学食もよく食べる（残菜なし？）

何度も行きたくなる国、韓国

여러 번 가고 싶어지는 나라 한국



ホームビジット

- ・現地の一般のご家庭にお邪魔し、日本語、韓国語を交えた会話をしながら家庭料理を一緒にいただく経験は、新鮮な経験でした。家の様式にも日本との違いがあり、文化の違いを身をもって知ることができた貴重な時間でした。また、日本に来る機会があれば、反対にホームビジットをしに来てほしい旨も伝え、帰国後も連絡をとりあっています。

文化授業体験

- ・日本全国から集まった異なる校種の先生方と協力して1つの授業を作り上げ、それを現地の子どもたちに向けて行いました。オンラインでの準備の時間から非常にワクワクしていましたが、日本語や韓国語で話すと目を輝かせ、明るく反応してくれた現地の子どもたちの笑顔や声も、含めて、心に残る経験となりました。また、日本の様々な地方の先生方との絆も深まり、日本国内の教育についても新しく知ることができる機会にもなりました。



現地の教職員、生徒たちとの交流

- ・学校へ訪問し、現地生徒の生の声を聴くことができたことは非常に貴重でした。質問をすると丁寧に答えてくれ、さらに日本について知りたいことを積極的に聞こうとする意欲が感じられ、対話を通じてお互いに理解を深めることができました。また、教職員との懇談会、食事会やワークショップを通して、教育の楽しさや課題、お互いの国の取り組みについて深く共有できました。同じ教科を担当している先生と連絡先を交換したことで、帰国後も時間がある際に質問や連絡を韓国語、英語を使ってとりあい、交流を深めることができます。



今後のアクションプラン

①韓国文化についてや学校教育について学ぶ授業（自身）

- グローバルスタディ科の教員であるため、英語のみならず、韓国語も活用しながら、韓国の文化や学校教育についてのトピックを扱う。現地で撮影した視覚資料を見せつつ、リスニング練習として英語でのスモールトークを行ったり、そこから生徒が興味をもったことについての調べ学習や発表を行わせたりする。

②総合的な学習の時間の改革に向けた、生徒たちや教職員への経験共有（学年）

- 総合は、学年教員が一体となって行う授業になるため、教員の無理のない範囲の確実な時間の確保もしたうえで、子どもたちに向けた経験の共有を行う。さらに、最終的なゴールとして、金海国際授業量柔軟化のように、総合の時間を、より生徒主体であり、学年を越えて取り組めるようなものにできないかを検討していく。

③慶尚南道の「共有教育」を参考にした学校改革（学校全体）

- 本校は、元々生徒数が少ない地域の学校だが、近年さらに生徒数の減少がみられている。そこで、慶尚南道のように、近くの同じ現状を抱える中学校と連携を図りながら、授業成果を発表しあえる機会を作る等の計画を行うようにする。そして、共同教育姉妹校を増やし、今後海外の学校と姉妹校提携を結ぶための一歩としたい。

令和6年度韓国政府日本教職員招聘プログラムアクションプラン

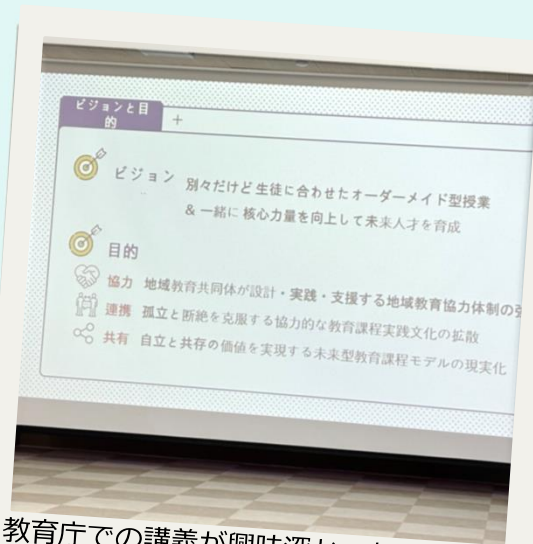
韓国滞在期間中に
印象に残っている経験や
活動について



実際に韓国の学生と色々な話が
できたこと。流行っていることや
日本が大好きなこと #睡眠4時間?



韓国の給食を食べることができた!
#おいしい #量多い #野菜豊富
#小学校でも意外とキムチは辛い



教育庁での講義が興味深かった。
#一人も取り残さない施策
#指導要領よりも教員独自の過程で
#教育の悩みは日韓共通 #教育予算多!



どこに行っても大歓迎TT
#情の文化
#おもてなしがすごい



今後行いたい 取り組みについて



韓国の中学校とオンライン交流

- 韓国の生徒会との交流
 - ・ 学校紹介や行事の紹介
 - ・ よりよい学校づくりを共に考える
- 学級単位での交流
 - ・ 英語科とのコラボ
(例：お互いの街紹介など)
 - ・ 音楽科との交流
(例：架空のアーティストをプロデュースしてマーケティング案を考えてみよう→ppにまとめプレゼンなど)

そのために準備したいこと

- 生徒や教員への情報共有
 - ・ 撮影してきた写真や映像を共有しながら韓国の教育や学校について説明
- 交流のためのスケジュール調整
 - ・ 秋～冬くらいを目安に企画案を作成
 - ・ 懇親会で連絡先を交換した先生と連絡を取り合う

(自身も通訳のために韓国語の勉強を再開する。
保護者にTOPIKを勉強している方が居るので協力してもらう＝地域との協力)



印象に残ったこと

- 地域の材の活用

釜山星宇（ソンウ）学校訪問

→地域の方がボランティアで学習活動を定期的にサポートしてくれる

その道のプロと関わることもできて子どもの貴重な経験になる

→体験的な活動の充実

- 探究する子どもの姿

金海（キメ）外国語高等学校

→課題解決に向けて子どもが主体的に探究する姿が輝いていた

積極的に日本語で話かける子どもの多さに驚いた



今後の取り組み

- 校内研修の実施

韓国の教育現場で感じた地域との協力（人との出会い）の大切さを伝え、
所属校でできる取り組みについて考えるきっかけにする

- 子どもと共に文化理解

総合的な学習のテーマは「魚料理」

日本の文化について改めてよさを感じつつ、

日韓の食文化の理解を深め、魅力を発信する授業を行っていく



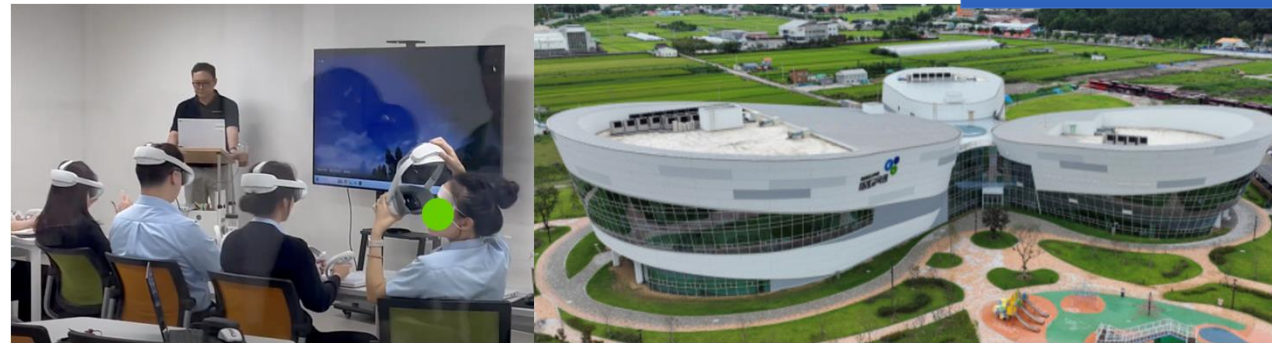
Weクラスの運用



小中高のどの学校にもWeeクラス（相談室）が設置。毎日専門の常勤の教員が配置されている。生徒からの相談だけでなく、Weeクラス主導で様々なイベントも行われている。担任の仕事軽減にも繋がっている。日本でもSCやSSWはいるが、うまく運用されてない場合も少なくない。このWeeクラスをうまく参考にしてもいい。

未来教育院

田舎ののどかな地域に近未来的な建物に驚いた。慶南道の学校からの申請予約して、VRなど様々な経験ができる施設。施設の充実度はもちろん、学校だけでなく家族連れでも楽しめるよう工夫がされていた。最新技術を用いた経験を子供のうちから経験できるのはとても良いことだと思った。



サンウ（特別支援）学校



韓国の特別支援学校の体制は、先進国に比べ少し遅れていると話を聞いていたが、真逆で様々な取り組みが行われ衝撃の連続だった。

ただ、先生の話では社会全体ではまだまだ障がい者への認知不足な面もあり、難しい課題も多いと伺った。

今後取り組んでいきたい事

日韓交流事業実践

以前、韓国で企画実施した交流プログラムを今度は日本側から仕掛けたい。なかなか日本側は韓国語が堪能な教員がおらず交流しても内容がそこまで伴っていないこともある。自分の語学力を活かし、ただ互いの学生が触れ合うだけでなく、様々な議題について両校で発表し合う日韓グローバルフォーラムの実施屋、互いの有名な観光地をその相手の言語で案内アテンドするなど工夫を凝らして中身のある交流を作っていきたい。

その他、自分が韓国で築いた人脈を活かし、吹奏楽や運動部での交流も実現させたい。

2016 - 2018

韓国の高校で勤務していた時に実施した日韓相互訪問プログラム

